

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス 星の王子さま			
○保護者評価実施期間	令和8年7月1日 ～ 令和8年7月17日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	16名
○従業者評価実施期間	令和8年7月1日 ～ 令和8年7月17日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年8月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	定期的な面談を通して、こどもや保護者のニーズを把握し、個別支援計画に反映するとともに、計画に沿った支援に努めている。	面談前のアンケートに「保護者のニーズ」や「事業所に対する希望・要望」の項目を設け、保護者の意向を把握しやすいよう工夫している。把握した内容は個別支援計画に反映し、支援につなげている。	把握したニーズに対して可能な限り対応するとともに、内容を個別支援計画に反映し、職員間で共有する。定期的に支援内容を振り返り、ニーズに沿った支援の充実を図っていく。
2	日頃からこどもの状況や様子について保護者とこまめに情報共有を行い、相談や苦情にも迅速かつ丁寧に対応することで、保護者が安心して相談できる関係づくりを大切にしている。	送迎時の直接のやり取りや電話、連絡帳等を活用し、こどもの様子や変化をこまめに保護者と共有するよう心がけている。また、保護者の気持ちに寄り添いながら、こどもへの適切な関わり方を一緒に考え、家庭での支援につなげられるよう工夫している。	引き続き保護者との情報共有を大切にし、家庭と事業所それぞれの様子や困りごとを共有しながら、より具体的な関わり方や支援方法を保護者と一緒に考えていく。
3	長年勤務している職員が多く、これまでの支援経験や知識を職員間で共有しながら、一貫性のある支援を行っている。また、職員同士の連携が良く、互いに協力しながら支援をしている。	経験や知識の豊富な職員から支援の方向性や具体的な方法について助言を受けるとともに、職員間で意見を出し合いながら支援内容を検討している。共通認識を持ち、足並みを揃えた支援を行えるよう努めている。	職員それぞれの経験や知識を共有する機会を増やし、ケース検討や支援後の振り返りを通して、より良い支援方法を職員間で検討していく。支援の方向性や対応方法について共通認識を深め、チームとして一貫した支援の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数に対する支援スペースの確保や施設の老朽化への対応、及び支援環境の構造化が十分ではないことが課題である。	こどもの人数に対して十分な活動スペースの確保や、建物の老朽化に伴う設備等の改善、こども一人ひとりの特性や状況に応じた環境の構造化が十分ではない。	今後は、こどもの状況に応じて支援スペースを柔軟に活用しつつ、建物の老朽化に対しては修繕や改修を検討していく。あわせて、視覚支援を取り入れることで、こどもにとって理解しやすく安心できる環境（構造化）の整備を進める。
2	個別の相談には対応しているが、家族等が参加できる研修会やペアレント・トレーニング等の機会を設けられていない。	個別の相談対応を優先しており、研修会やペアレント・トレーニングを企画・実施するための時間や体制を十分に確保できていないことが要因として考えられる。	保護者のニーズを把握し、関心の高いテーマについて研修会や勉強会の実施を検討する。また、ペアレント・トレーニングについても実施方法を検討し、家族支援の充実を図っていく。
3	近隣の放課後児童クラブとの交流や行事を通じた地域住民の招待・参加が十分に行えておらず、地域社会との関わりが薄い状況にある。	個人情報やプライバシー保護への配慮、トラブル防止などの安全管理上の慎重な姿勢に加え、地域や他機関との日常的な連絡・協力体制が未整備であることが、地域との関わりを深める上での障壁となっている。	地域の関係機関との連携を深め、安全面に配慮した交流の場や行事参加の方法を検討していく。あわせて保護者のニーズを把握し、無理のない範囲で地域に開かれた事業所づくりを目指す。